

<随想>

中国の事、日本人は知らない事が多い

龍谷大学経営学部教授

松野 稔

多くの日本人がビジネスで、又観光で中国に渡っております。皆美味しい中国料理を食べ、又中国流の商談でクタクタになります。中国人には親切にされる事もありますが、不愉快な事も経験します。多くの人は中国と言う国が当初抱いた漢詩的、牧歌的なイメージから徐々に「この国と人々は良く分からない」という風に変化して行きます。然しどうも良く分からない。中国の事を簡単に話している人を見かけますがこの国はそんな単純な国ではなさそうです。小生が15年間の駐在で知り得た、聞いた、体験したことを独断と偏見ではありますがお話したいと思います。

1. 宴会での事

中国人は来訪人を持て成すのが上手です。折角遠路遙々来て呉れたのでよい思いをして帰って貰おうと思っているようです。純粋な意味でこの様に行うのでしょうか。それで招待された我々もついよい気分になって、思わずハメをはずす事もあります。注意しましょう。“酔っぱらっては駄目!”です。中国人は酒を飲んでも酔っ払いはいはしない。此れは酔うとつい自分の本音を言ってしまう気分になるからです。「酒後吐真言」と言う言葉あります。「酒飲んだら本当の事を言う」という意味でしょうね。彼らは酔ッパライを軽蔑の対象にします。故に招待された客の飲みっぷりを観察しています。酒を勧めます。多くの日本人は勧められて断るのは礼儀に反すると気を遣い、勧められるままに飲んでしまいます。その結果、案の定、酔っぱらって滅茶苦茶になりますね。こんな風になったら、友好も何もあったもんでは有りません。飲めないとはっきり断りましょう。中国では料理を「食え、食え」と勧めるのは許される事、然し酒を飲め!と強要するのはご法度です。故に飲めないなら大きな声で「飲めません!」とはっきり言う事です。

それから酒を若し飲む場合は一人で飲まない事。誰か、飲む相手を探して、

中国の事、日本人は知らない事が多い

一緒に飲む様にする事。この時、お互いに名目を言う様にしたら良いでしょう。「貴方のお仕事の発展を祈って乾杯！」とか言ってね。中国人は兎に角賑やかな事が好き、一人でチビチビ飲んでいると「どこかお身体が悪いのですか？」と言われてしまいます。

中国の酒は紹興酒とか白酒とかビール、ワインなど有りますが、宴会を盛り上げるには矢張り白酒でしょう。アルコール度数が38、52、60など有ります。高いと火がつきますからタバコに火を付ける場合は注意しましょうね。さて、美味しい料理、酒を楽しんで、翌日、ぱったり、招待した人に会った場合、思わず「昨晚は美味しい料理、有難うございました」と言いたいですよね。然しこれは、中国で言うてはいけません。何故か。これを言われた方は「あれ！今晚もご馳走せにゃいかんのか」と思い、以後悩んでしまうからなのです。日本ではこれが当たり前、礼儀にかなっていますが、中国で翌日御礼を言うものなら最悪、関係が悪化するでしょうね。

さて、宴会では招待された方はお土産を用意する事が有りますがこのお土産にも渡していけない物が有りますから注意しましょう。たとえば次のようなものです。

石鹸：「貴方これを使用して清潔になりなさい」と言う意味。

傘：発音は「散」と同じで別れるという意味。

ハンカチ：これを使って「涙」を吹きなさい。「涙」は縁起の悪い事。

梨：発音が「離」と同じ。これでお別れという意味。

置時計：発音が「終」と同じでこれでお仕舞と言う意味。特に患者見舞いの時は此れ持っていったら絶対に駄目！

はさみ：「切る」というイメージでこれで縁切りですね、という事（はさみをお土産に持って行く事は無いと思いますが中国人の助言です）。

反対に喜ばれるお土産は林檎（赤くて丸いから縁起が良い）、お菓子、ケーキなどです。お土産を渡す時に一言。「これは貴方の為にわざわざ、東京まで行って（本人は大阪に住んでいるとして）買ってきたのですよ」と。この言い方を中国人はよく使いますね。わざわざは「特意」という単語ですが、これを言うと相手は非常に喜びます。又小生が経験したことです北京

勤務明けて離任の挨拶に幾つかの中国の会社を訪問しました所、会社の幹部が途中遅れて我々の会談に参加、担当者は「この総経理は会議中の処わざわざ貴方の為に抜け出して来たのですよ」と言いました。我々は普通それを聞いて「恩着せがましく言う」と不快感を持ちますが中国ではこれは相手の面子を重んじた行為で相手は感激してしまう。これは正に異文化ギャップでしょうね。

それから、宴会で注意すべきは出た料理を平らげない事。全部食べない事。勿体ないから「全部」食べると招待した方は「量が不足していた」として悩み、申し訳ない気持ちになるからです。これも相手の面子に注意して行いましょう。勿体ないなら余ったものは箱に入れて呉れますので心配ないです。

2. 面子社会である。

小生は成都で一年間「イトーヨーカ堂」に出向として勤務し、管理本部長を務めました。多忙な時は自ら売り場に立ち、又サービスカウンターで顧客に対応しました。その中で或るご婦人が高価な置物を購入し、サービスカウンターへ来て「これ贈り物にするので綺麗に包装してください」と頼んで来ました。小生は値札がついているので其れを取ろうとした所、ご婦人は慌てて「それ取ってはだめ!」と大きな声で言いました。小生、「え!」とびっくり。後で中国人社員に訊いたところ、「相手にこんな高い品物を送るのですよ。それほど貴方の事を想っているのですよ」と言う事を表現しているとの由。これは面子ですね。

またイトーヨーカ堂のレジでの出来事。これも妙齡なご婦人。お金を払う段で、お札を偽札発券機にかけた所案の定偽ものと判明。これは当然お札を受け取りできない。ご婦人には「偽札ですから、再度お金払ってください」と要請したところ、当のご婦人、真っ赤になって怒りだし「自分が偽札使用するわけないでしょう!」と我々と押し問答。自分のプライドが傷つけられてご婦人は皆の面前で大きな声が益々大きくなり皆は一斉注目。結局お金は余分に払った格好で決着しましたがこれも面子の問題ですね。

中国では面子は色々な面に関与しますね。面子はプライド、見栄というものでしょうか。特に役人は気にしますね。中国人はその人の役職に敬意を払

中国の事、日本人は知らない事が多い

うと言います。故に権限で決められた事以上の事を出来ると言って実際に其れを行うと役職に益々敬意を払う様になります。此れが大問題の腐敗汚職を生むのでしょう。小生は広東で加工貿易に携わり、税関、税務署との関係が密接に在りましたが、一番多く気を使ったのは窓口の一般職員への配慮です。彼らは権限は少ないのに威張っています。小生は彼らの面子を気にしながら仕事をしたものです。

3. 主張する人々

先述のとおり中国人は賑やかな事が好きのようです。上海の地下鉄に乗って御覧なさい。日本の静かな地下鉄のイメージが一変して喧噪の地下鉄になります。大声でわめいている人、携帯で大声で話している人が大多数。車内がやかましく、周囲が大声故余計大きな声で話しますね。

山東省の威海の合弁会社に勤務していた時、購買のトップは中国人の副総経理。日本の空調メーカー相手に延々と商談を行っていました。それを小生は見ていましたが、兎に角一度片付いた問題を再度持ち出してネチネチ言います。日本のメーカーの人達は当初はおとなしく聞いていましたが次第に声が荒くなり「其の問題は先ほど終わったでしょ！」と言いだす。それでも中国側副総経は再度、何度でも蒸し返す。何度でも、何度でも――。仕舞に日本側メーカーは怒り出し、商談が一時ブレイクとなりました。其れで小生の所に相談にきましたが、「これは彼らの常套手段です。短気にならない事、体力勝負と思う事」と助言しました。小生も合弁会社設立の契約交渉では徹夜のギリギリ交渉をして体力使い果たし疲労困憊を経験しました。

昔、先輩から教わった中国との商談で中国側が使用する戦術を思い出しました。即ち次のようなものです

A) 刑事コロソ作戦：商談終了してホット一息、お別れする時中国側より「あの一ひとつ大事な事を忘れていました」と言われ、一瞬ギクッとして、不安な気持ちで再度交渉を始めます。此れは「刑事コロソ」にそっくりの戦術。

B) 地獄に仏作戦：交易会ではなかなかアポイントが取れません。日本の本社から商談成り行きのテレックス（当時はメール無し）が来ます。帰

国の日が迫って来ます。何とか成果を挙げないと上からものすごく怒られます、どうしよう、どうしよう、と不安が重なって来ます。と言った所で中国の会社から急に連絡が入り「今から商談に入ります。至急来て下さい！」言われて、「あー、良かった、これで大手を振って帰ることができる」と言う気分になります。するとややこしい商談はせず、殆ど相手側の言う条件を飲んでやれやれ、となります。この心理作戦は見事というべきか。

C) 毛沢東作戦：商談の途中に突然中国側のトップが参加します。勿体ぶって担当者が言う「総経理は多忙の中わざわざ（特意）貴方に会いに会議を抜け出して来たのだ」と。其れを言われた出張社員は感激してその総経理の面子を考えてこれ又譲歩して商談を纏めてしまう。これが毛沢東作戦。

D) モグラたたき作戦：一度片付いた案件を再度持ち出し何度でも行うものです。此れで相手側は疲労困憊に陥るだろうと思って行います。要は体力勝負。徹夜なんて当たり前のこと。北京のプラント商談では夜中の2時に叩き起こされ延々明け方まで行った事を思い出します。

E) 大列車作戦：「この商品は人気有りよく売れています。この交易会でも契約要望多く断るのに苦労しています。お宅も早く契約せんと物は無しになります！」とかなんとか言われて、急に不安を感じて契約してしまう。ふたを開けたら何の事はない、物はたっぷり有り、価格も結構安く手に入るではないか、と思っても後の祭りです。早く列車に乗らないと損しますよ！と言う事でしょう。

我々の仲間では「中華スープ飲んだ？」という言葉が交わされたものです。このスープとは何でしょう？ スープは「四不」と書きます。内容は「不愉快」、「不自由」、「不満」、「不公平」で、中国で生活するとこの様な「スープ」を飲まされたものです（今でも残っていますね、このスープは）。

中国では夫婦喧嘩は外でやれ、と言う言い方が有ります。日本では格好悪いから家の中で行うのが当たり前、逆に中国では外で行います。皆の前で大声で怒鳴り合う。多くの人が面白いので集まって来ます。喧嘩終了後はこの

中国の事、日本人は知らない事が多い

大衆が陪審員となり判決を下します。判決後一件落着ですね（スンナリ終われば良いですが）。小生は夫婦喧嘩に出くわした事は有りませんが、普通の喧嘩は日常茶飯事。大勢の人が取り囲み騒いでいます。中国ではとかく家の中の事を表に出す様な習いが有る様です。先述の喧嘩、又食事でも表で食べようとします。「ほれ、見てごらん。こんなにたっぷりと食べているんだ」と言う処を見せたいのでしょう。表に出せば否が応でも見ざるを得ないということです。

この習性は日中の外交作戦にも使用されていますよね。そう、あの「尖閣諸島」の問題。中国は世界に向かって「問題」をアピールしています。かたや我が国政府は「あれの問題は存在せず」との態度ですが中国側は声を大にして訴えておりますね。世界の人には耳に入ってくるでしょう。我が国は如何に対応すべきか、思案のしどころですが、まあ静かに、静かにでしょうね。

4. 中国の崩壊は有るの？

刺激的なテーマですが、小生の個人的見方は「崩壊は無いが、形は変質する」というものです。中国共産党は国民の80%が嫌っていると言われていいます。それでも持ちこたえていますね。何故？社会には共産党の細胞が網の目の様に張り巡らされています。細胞は大学の教授、学生、会社員、役人、乞食などなどあらゆる人に化けて大衆の言動を監視しています。不穏な言動を見ると「ちょっと、その喫茶店でお話しませんか？」と言って誘いだし「貴方、今変な事言っていましたね。今後その様は言動を吐くと今後職場におられない様になりますよ。注意してください」との賜る。何しろ職場には共産党の委員会有り、経営者よりも偉い。となると、解雇なんていとも簡単に行われます。この不景気の世の中、解雇されたら、生活維持は全くできない。と、なると言われた方は「今後絶対にしません」約束してしまう。

国家の予算では国防費より国内治安対策費の方が多い現状ですね。少なからずの日本人は期待を込めて中国の崩壊を言いますが本当に崩壊して困るのは日本でしょう。25,000社の日系企業が中国に存在するのです。格差是正を叫ぶ中国の保守層は本気になって「中国鎖国」を叫んでいます。鎖国して外国資産を接収して中国の資産にして資金を貧乏人に与えれば格差は一夕にし

て解消と言っています。この様になったら困るでしょう。又崩壊した後の体制も今と変わらない体制でしょうね。となると、中国と言う国は日本にとって何時までも厄介な国となりますね。この厄介な存在とならない様に我々は地道に草の根外交を繰り広げる事が求められております。身近にいる留学生、中国人を大事にして本当の日本の良さを感じ取って貰い、彼らが帰国した後、周囲の人に「反日から好日」という方向になるようにしましょう。又中国で勤務する日本人も文化大使と言う気持ちで中国人と接して貰いましょう。

時間がかかりますが、多くの誤解がお互いの不信感を産んでいるのです。小生は中国勤務15年ですが、不愉快な思いは少なかった様に記憶しています。大衆は皆良い人ばかりです。悪いのは政府と見ましょう。日本政府も中国人からみれば悪く映るでしょうね。ですから、お互い相手の政府を見るのを止めて相手国の人を見る様にしましょう。さすれば、反日、嫌中は起こらないものです。小生はこの事を信じます。

以上。